

心身障害発生防止のための小児保健環境学的研究

総括研究報告書

主任研究者	木村 三生夫	東海大学医学部	教授
分担研究者	須川 豊	神奈川県立栄養短期大学	学長
	大田原 俊輔	岡山大学医学部	教授
	福山 幸夫	東京女子医科大学	教授
	平山 宗宏	東京大学医学部	教授
	巷野 悟郎	東京都立府中病院	院長
	沢田 啓司	日本総合愛育研究所	部長
	前川 喜平	国立大蔵病院	院長
	木村 三生夫	東海大学医学部	教授
	高石 昌弘	国立公衆衛生院	室長
	今村 栄一	母子衛生研究会	理事
	榊原 悠紀田郎	愛知学院大学歯学部	教授
	高久 功	長崎大学医学部	教授
	原 一郎	大阪府立公衆衛生研究所	副部長
	植田 理彦	日本健康開発財団総合健診センター	所長
	柳下 徳雄	慶応義塾大学伊勢慶応病院	院長
経理事務担当者	高倉 巖	東海大学医学部	助教

班長	木村 三生夫	東海大学医学部教授
幹事	平山 宗宏	東京大学医学部教授
	高石 昌弘	国立公衆衛生院室長
	巷野 悟郎	東京都立府中病院長
	大田原 俊輔	岡山大学医学部教授
監事	今村 栄一	母子衛生研究会理事
評価委員	蒲生 逸夫	兵庫医科大学教授
	林 路彰	国立公衆衛生院母性小児衛生学部長

研究の目的

心身障害の発生要因はきわめて多岐にわたっている。本研究の目的は小児保健環境学の立場から、その発生要因と発生の実態について検討するとともに発生予防および治療方針について探究することであり、以下の事項について研究を行う。

- (1) 発育過程の乳幼児の疾病障害の追跡
- (2) 小児期けいれんの成因分析と予防
- (3) 小児の健康に関与する諸因子の検討
- (4) 小児の微症状を指標とした心身障害の早期発見方法
- (5) 小児の精神身体発育からの心身障害の早期発見方法
- (6) 心身障害の原因としての小児の事故
- (7) 幼児の肥満（傾向）
- (8) 離乳食・幼児食
- (9) 乳幼児の歯科保健管理
- (10) PCB汚染地区の母と児
- (11) PCB取扱い婦人とその児
- (12) 都市在住の児童を有する家庭婦人の健康実態
- (13) 小児感染症の最近の変貌とその対応策

実施計画

(1) 乳幼児の発育過程における疾病障害などの追跡研究

分担研究者 須川 豊

昭和44年11月から45年10月までの間に神奈川県で出生した14,920人について妊娠中の母親の生活条件から出生後の発育・疾病・傷害など健康状態に関する各種のデータを集積した。出生時体重、生後の発育に関与する因子の検討、先天奇形の発生に関与する因子の検討、特定疾患の発生頻度の分析をはじめとしてコンピューターによる分析を行い、母子管理システムの具体的施策、妊婦の生活の具体的指導指針について検討する。

(2) 小児期けいれんの成因分析と予防に関する研究

分担研究者 福山 幸夫
大田原 俊輔

小児期けいれん性疾患の頻度はきわめて高い。その原因はきわめて多様であり、周生期出生後の器質的原因が多いこともいわれているが未解明の点が多く残されている。小児期の各種痙攣性疾患について成因分析を行い、てんかんの原因となりうる外因を有する小児を追跡研究するとともに熱性痙攣の成因および予後についても研究する。

(3) 小児の健康をめぐる諸因子に関する研究

分担研究者 平山宗宏

小児の健康を評価するのにいろいろの因子があるが基準として確定したものはない。そこで食生活を中心とした生活面の調査、身体計測、体力測定などの諸要素と健康の関連を考究し総合的な健康度評価を行うことを目標とする。障害を有するもの、慢性疾患を有するものにおける健康増進を目指すことも重要である。小児の健康に社会的関心が高まっている現在、小児の健康を総合的に評価できるようにする必要がある。

(4) 小児の微症状を指標とした心身障害の

早期発見方法に関する研究

分担研究者 巷野悟郎

心身障害を早期に発見するには微症状を適確に把握することが必要であり、微症状のなかでもっとも日常的な体温を中心とした生理の異常に注目して、健康小児の体温を发育および環境因子との関係において検討するとともに、心身障害児の体温についてもその特徴、日内変動、気温との関係を検討し、疾病別に解析して心身障害の早期発見の資料とする方向で分類整理する。

(5) 小児の精神身体发育からみた心身障害の

早期発見方法に関する研究

(i) 精神身体发育

分担研究者 沢田啓司

出生時より6歳までの发育記録がとどっている対象を約3,000例に拡大し身体計測値の評価、周産期の状況別の发育経過、发育に影響をおよぼす因子の分析を行うとともに乳幼児期の養育関係からみた精神身体发育についても縦断的に研究を行う。

(ii) 神経学的发育

分担研究者 前川喜平

乳児期にみられる姿勢反応について、とくに traction response と parachute 反応について、検査手技と各月令別の判定基準の標準化を行い脳障害児と正常児との相違を臨床的表面筋電図学的に検討し、脳障害児の早期発見の資とする。

(6) 心身障害の原因としての小児の事故に関する研究

分担研究者 木村 三生夫

救急患者として救急車で搬送される例中、事故によるものの率がどの程度であり、かついかなる種類の事故がどのような転帰をとるに至るかを検討することが1つである。つぎに溺水はわが国においてはきわめて高頻度に発生しており、その予後を左右する1つに呼吸管理があるので溺水現場、搬送先の医療施設で行われた呼吸管理の実態を調査し、後遺症予後との関連を追求する。頭部外傷症例の追跡調査、事故による死亡例の分析も必要である。

(7) 健全育成の立場からみた幼児の肥満（傾向）の

実態とその対策に関する研究

分担研究者 高石 昌弘

前年度までに集計した調査結果のうち身体計測値に関する資料を分析し肥満（傾向）やせ（傾向）を判定する基準を作成し、生活指導の方法を検討していく上で栄養、運動、生活習慣などとあわせ考え、具体的な指導基準の作成を目標とする。

(8) 離乳食・幼児食に関する研究

分担研究者 今村 栄一

前年度までの調査結果に加え、さらに医療機関、臨床医家の見解を求めた上で離乳の基準の試案を作製し、これに検討を加えて結論を求めていく。離乳食品については調理、与え方、成分についての調査を継続して行う。幼児食についての調査の続行とともに幼児の食事についての指針を検討する。

(9) 乳幼児の歯科保健管理に関する研究

分担研究者 橋原 悠紀田郎

乳歯う蝕の罹患型分類はすでに終り対象について経時的観察を行う段階にある。小都市における小児歯科保健管理システムのパターン化についても、継続研究を行う。へき地における乳幼児歯科保健計画については管理のあり方を続いて検討する。

(10) PCB汚染地区の母親とその児に関する研究

分担研究者 高久 功

いわゆる油症事件の発生から10年以上の歳月が経過したが、PCBの影響はいまだ根強く残って

いる。患者のみならず汚染地区に居住するもの、とくに妊産婦とその児に対するPCBの影響を考えなくてはならない。このため精神身体的発育の状況を追跡研究しているが、今年度もこれを継続して行い、PCBの母体、胎児への影響、油症患儿の歯科、眼科、皮膚科各領域での検討を行う。

(11) PCB取扱い婦人とその子供の健康に関する研究

分担研究者 原 一郎

PCB取扱者はPCB取扱いを中止しても数年以上高い血中PCB濃度を示している。血中および母乳中のPCB濃度は高い相関を示しているため、PCB取扱い婦人の児についてはその健康状況を追跡調査することが必要であり、今年度もこれを継続して行い、またPCB蓄積の影響を検出するのに有用な検査項目を発見すべく検討を続ける。

(12) 都市在住の児童を有する家庭婦人の

健康実態に関する研究

分担研究者 植田理彦

都市在住の母子をとりまく生活環境の変化、家庭内の仕事、ストレスの心身に及ぼす影響は重要であり、児の心身両面の健全な発育にも影響してくる。健常児を有する母親、心身障害児を有する母親これら2グループについて比較検討を行い、母親の健康の実態が児に及ぼす影響を検討する。

(13) 小児感染症の最近の変貌とその対応策に関する研究

分担研究者 柳下徳雄

従来から問題とされていた小児期感染症がその罹患年齢、流行様式に大きな変貌を見せてきているとともに、新しい感染症も多く見られるようになってきているがそれに対応する施策は充分とはいえない。学校保健上からも感染症に対する具体的対策は必要であり、疾患別の流行状況の集計、解析、感染症に対する意識調査を行って、対応策作成の基礎とするべく検討する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究の目的

心身障害の発生要因はきわめて多岐にわたっている。本研究の目的は小児保健環境学の立場から、その発生要因と発生の実態について検討するとともに発生予防および治療方針について探究することであり、以下の事項について研究を行う。

- (1) 発育過程の乳幼児の疾病障害の追跡
- (2) 小児期けいれんの成因分析と予防
- (3) 小児の健康に關与する諸因子の検討
- (4) 小児の微症状を指標とした心身障害の早期発見方法
- (5) 小児の精神身体発育からの心身障害の早期発見方法
- (6) 心身障害の原因としての小児の事故
- (7) 幼児の肥満(傾向)
- (8) 離乳食・幼児食
- (9) 乳幼児の歯科保健管理
- (10) PCB 汚染地区の母と児
- (11) PCB 取扱い婦人とその児
- (12) 都市在住の児童を有する家庭婦人の健康実態
- (13) 小児感染症の最近の変貌とその対応策